

特254

158

京都市の史蹟名勝天然紀念物



始



特254
158

京都市の史蹟名勝天然紀念物

京都市觀光課

發行所寄贈

はしがき

桓武天皇の平安奠都以來、一千有餘年間の帝都として政治文化の中心地であつた我が京都には、歴史と風光とによつて築き上げられた名所舊蹟が頗る多い。

これ等名所舊蹟のうち、史蹟名勝天然紀念物保存法に依り、保存指定を受けてゐるものは、現在市部に於て四十七箇所、近郊を併せて五十一箇所に達してゐる。

今茲にこれら史蹟名勝天然紀念物の略説をなし、附するに交通解説を以てした。廣く江湖の利用を得れば幸甚である。

因みに本書編纂に關しては、京都府刊行の「京都府の史蹟名勝天然紀念物」に負ふところが頗る多い。ここに附記して謝意を表する次第である。

昭和十二年一月

京都市觀光課

一、中央部並比東部



本願寺大書院庭園



1 明治天皇行幸所本願寺 (史蹟)

史蹟及名勝

2 本願寺大書院庭園

下京區本願寺門前町
(市電、市バス「七條強川」、又ハ
市電「西河院正面」下車)

眞宗本願寺派の本山で、俗に西本願寺といふ。宗祖親鸞聖人の入寂後、その女覺信尼が祇園の邊に一寺を創建し、龜山天皇から本願寺の號を賜はつたのが、その起りといふ。

その後、轉々寺地を變へ、今の地に定まつたのは今から約三百五十年前天正十九年のことである。

明治天皇は、明治十年二月十六日、奈良・京都を御巡幸の際、本寺に行幸遊ばされた。

大書院東にある此の庭園は、枯山水で、古來虎溪庭又は對面所の庭と呼ばれてゐる。巨石を並立して飛瀑を象り、白砂を敷いて水面に擬し、大小種々な布石の間に蘇鐵を巧に配植して、建築と庭園との調和の妙を盡した趣は、桃山時代造園術の特色をよく發揮したものであるが、作者は朝霧志摩之助と傳へられてゐる。

3 明治天皇御小休所枳殼邸 (史蹟)

史蹟及名勝

4 涉成園

下京區東玉水町・打越町
(市電、市バス「河原町正面」、
又ハ七條間ノ町「下車」)

涉成園は、もと河原左大臣源融の別業であつた河原院の遺跡といひ傳へ、徳川家光の寄進によつて大谷派本願寺の別邸となつた。周圍に枳殼を植ゑるところから枳殼邸の名が起つたといふ。

明治天皇は、明治元年三月二十一日、大阪行幸の砌に御小休になられたのを初めとし、同年閏四月八日、同五年六月四日及び同十三年七月十四日の四度に互つて御駐輦遊ばされ、大正天皇も東宮の御當時行啓あらせられた。

源融の築造當初の庭園は奥州鹽竈の景を寫して營まれたといふ。のち石川丈山の改作に際り、印月池と呼ぶ大池を中心に十三景を配し、その間に梅・楓・藤を植栽して大いにその景觀を改めた。今もよく舊態を保ち幽邃の境をなしてゐる。

枳殼邸涉成園



妙法院積翠園



5 明治天皇妙法院行在所(史蹟) 東山區妙法院前側町 (市電、市バス「東山七條」下車)

妙法院は天台宗門跡寺院の一で、初め比叡山にあつて延暦寺三千坊の一であつたが、慶長年間今の地に定まつた。

文久三年八月十九日、三條・姉小路・壬生・東久世等の七卿が、長州藩士と此の宸殿に會して都落の議を決したことは世に有名である。

明治天皇は、慶應四年八月二十九日、東京より京都還幸の際、當院で御小休遊ばされ、又明治十三年、山梨・三重・京都市幸の砌、七月十六日こゝに御駐輦御晝食を召させられたことがあり、玉座の間が現存してゐる。庭園は御座の間庭園及び積翠園の二園よりなり、その意匠は共に小堀遠州の流を汲むものといふ。

6 天然記念物 新熊野神社の樟

東山區今熊野柳ノ森町

(市電「今熊野」下車)

新熊野神社は永暦元年十月、後白河上皇の勅旨により、當時の院の御所法住寺殿に熊野本宮を勸請あらせられた社である。上皇は深く熊野大神を崇敬し給ひ、熊野御幸も數度に及んだが、此の社への御參籠は百五十餘



新熊野神社の樟

度に及んだといふ。爾來歴代皇室の御尊崇篤く、社域の宏壯、社殿の莊嚴洛東の偉觀であつたが、應仁の大亂後、一時社運が衰へた。現在の社殿は後西天皇の御代に再建されたものである。樟は社務所の前庭の玉垣の内にあり、高さ六十二尺、周圍二十尺に及ぶ老樹で、當社創建の際熊野から移植したものと云ふ。

高臺寺臥龍池



史蹟及名勝
7 高臺寺庭園

東山區下河原町
(市電、市バス「安井北門道」下車東)

高臺寺は慶長十一年豊臣秀吉の夫人高臺院湖月尼が秀吉の菩提を弔ふため建立した寺で、始め玉雲院と稱した。當初の建物は伏見城の殿舎を移し、結構善美を極めてゐたが再三の火災にかゝり、今當初の佛を遺してゐるものは、開山堂・秀吉夫妻の靈屋・表門及び庭園があるばかりである。

庭園は、小堀遠州の作と傳へられ、世に鶴龜の庭ともいふ。苑池に架した廊橋によつて、偃月・臥龍の二池に區切られ、臥龍池は稍荒れた観があるが、偃月池は置石配樹に妙を得て、幽邃清雅の趣に富んでゐる。

名勝
8 圓山公園

東山區圓山町・鶯尾町・祇園町南側
(市電、市バス「祇園石段下」下車東)

圓山公園は京都第一の公園であつて、明治十九年始めて設置せられ、翌二十年府から市の管理に移された。西は官幣大社八坂神社の境内に連り、南は雙林寺・東大谷に接し、北は知恩院に隣り、東には圓山の麗容を望み、その全面積は約三萬坪に及ぶ。

現在の公園の規模は、明治四十年の擴張後、更に大正元年造園家小川氏によつて造作されたもので、中央に池を穿ち、巧に林泉庭石を配置して京の四季の風趣を蒐め、優婉な景致を形成してゐる。園内には到るところに櫻樹があり、特に中央の老樹枝垂櫻は、花時の夜景によく、世に祇園の夜櫻と呼ばれ、その名を天下に謳はれてゐる。

祇園の夜櫻



南禪院庭園曹源池



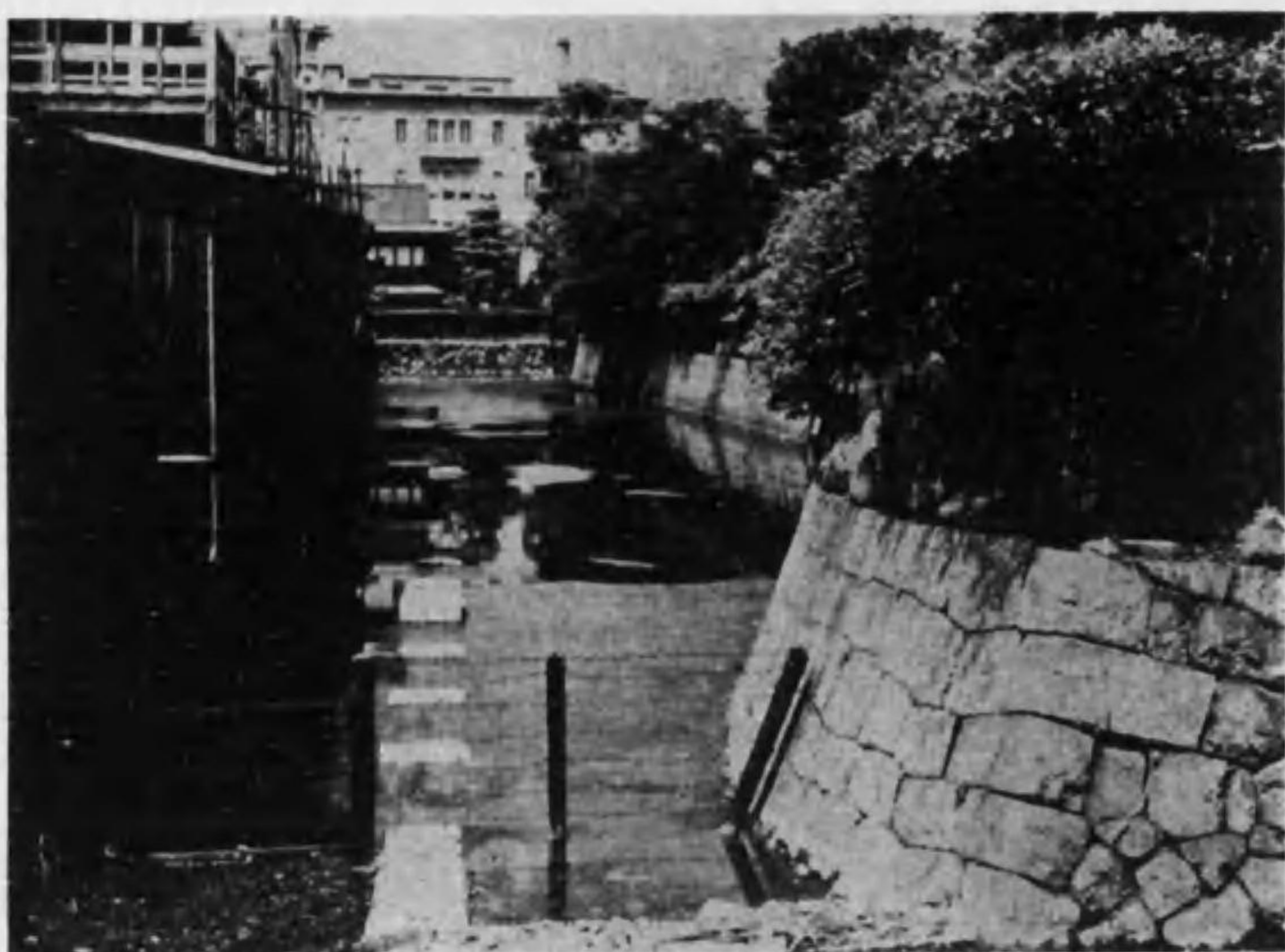
史蹟及名勝
9 南禪院庭園

左京區南禪寺福地町
(市電「南禪寺前」下車東)

弘安年中、龜山上皇が此の地に離宮を營まれ仙居し給うた時、宮人がものけに禍されたので、東福寺の大明國師を仙洞に召して祈らせられたところ、妖怪頓に止んだ。爾來上皇は深く大明國師に歸依せられ、離宮の一部を禪刹と改められたのが此の寺の起りである。南禪寺の建立後、南禪院はその塔頭となり、上皇の御法體尊像を安置して、今も一山の尊崇甚だ篤い。現在の伽藍は、創建以來數度の回祿を経て、近世に至り再建されたものである。

庭園は京都に残る唯一の鎌倉時代築造のものであり、補作されて稍その景觀を變へたが、主景は 龜山上皇御在世の當時のまゝといはれ、境内の南・西を限る獨秀峰と羊角嶺の麓に曹源池を穿ち、小島を築き池畔に景石を配して、頗る閑寂な趣に富んでゐる。

高瀬川一之船入



史蹟
10 高瀬川一之船入

中京區河原町二條下ル東入一之船入町
(市電、市バス「河原町二條」下車)

慶長十五年豊臣秀頼が父秀吉の遺志を繼いで大佛殿方廣寺を再建するに際り、諸國から大木巨石を伏見に取り寄せたが、これが市内搬入に非常な困難を感じた。因つて角倉了以は奉行片桐且元の許可を得て、二條樋口から賀茂川の水を引入れ、木屋町の西沿ひに伏見まで運河を掘り、容易く石木を運ぶことに成功した。翌年更に徳川幕府に乞うて高瀬舟を通じ、貨客の運輸に充てたのが高瀬川の起りである。

爾後高瀬川は江戸時代を通じて盛に利用せられたもので、二條・五條間に設けられた七個の船入には高瀬舟の出入繁しく、川筋に間屋が櫛比して商況殷盛を極めてゐた。

それも明治以後は次第に衰へ、船入も此處を除いて悉く埋立てられるに及び、此の船入も昔時と著しくその形を變へるに至つた。

明治天皇行幸所木戸邸内部



11 明治天皇行幸所木戸邸 (史蹟)

中京區土手町竹屋町東入、末丸町
(市電、市バス「河原町竹屋町」下車東)

木戸孝允は長州藩士で、通稱を準一郎、號を松菊といひ、幕末國事に奔走する頃は桂小五郎といつてゐた。明治十年二月西南の役が勃發した際、孝允は聖駕に供奉して入洛したが、不幸病を得るに至つた。明治天皇は深く御軫念あらせられ、五月十九日木戸邸に行幸遊ばされ、優渥なる勅語を賜はつたが、天命如何ともし難く五月二十六日、齡四十四を以て薨じた。

よつて同二十八日、明治天皇は誄詞を賜はり、六月四日、遺骸を洛東靈山に葬つた。

行幸遊ばされた建物は、その後稍位置を變へたが、能く舊態を存して維新の功臣木戸孝允終焉の様を髣髴たらしめる。

山紫水明處



史蹟

12 頼山陽書齋(山紫水明處)

上京區東三本木南町
(市電、市バス「河原町丸太町」
下車東入北)

頼山陽は安藝廣島の人で、三十二歳の時京都に上り、塾を開いて漢學を講じたが、四十五歳の時此地に家を建てて水西莊と名付けた。文政十一年四十九歳の春、新に書齋を隣地に營み山紫水明處といひ、有名な日本政記の著もここでなされた。山陽は天保三年九月、五十三歳を一期として歿したが、日本政記はその臨終に至るまで筆をとつて稿を全うした。昭和六年九月その百年祭を行ふに際り、畏き邊から特旨を以て従三位に追陞せられた。

此の山紫水明處は四疊半の書室と二疊の侍室とを有する葦平家建てで、極めて狭小であるが、西に山陽意匠の庭を控へ、東に水明の賀茂川を臨み、比叡の雄姿を仰いで風光の美なること、その名に背かない。

史蹟
13 伊藤仁齋宅(古義堂)趾並書庫

上京區東堀川通出水下ル四丁目
(市電「堀川下立賣」下車北)

伊藤仁齋は、名を維楨、通稱を源佐といひ、仁齋はその號である。初め宋學に志したが、後悟るところあつて古學を唱導し堀川の自宅に塾を開いた。仁齋は頗る恭儉・謙讓であつたので、人に屈することを知らなかつた荻生徂徠すら、仁齋のみは尊敬してゐたといふ。仁齋の子東涯も亦よく父の意圖を紹述したので、京都の古學は鬱然として興り、その門人も千人を超えるに至つた。

創建當初の古義堂は延寶元年の大火で焼失し、現在の建物は明治二十三年の建造であるが、書庫のみは昔時のものであり、中には仁齋・東涯の書入本が多く藏されてゐる。



伊藤仁齋古義堂趾

史蹟
14 神泉苑

中京區神泉苑町通御池東入
(市電「堀川御池」下車西)

平安京造營に際り、大内裏の東南に接して營まれた禁苑である。昔はその面積も東西二町、南北四町の廣きに亙り、苑内に大池を穿ち、林泉の美を盡くして御遊の所となし給ひ、群臣と詩賦宴遊の清興を行はせられた地である。

弘法大師はここで守敏僧都と祈雨の法驗を競ひ、清和天皇は貞觀五年御靈會を修せられた。又小野小町が和歌を詠じて雨を降らしたといふのも此の地である。

爾來時代の降ると共に舊規を失ひ、今は纔に方一町の區域に往時の佛を止めるばかりである。池の南の中島には善女龍王を祀る堂がある。



神泉苑

聖護院解雪亭(一夜造の御座所)



史蹟
15 聖護院舊假皇居

左京區聖護院中町
(市電「錦林校前」下車北)

天台宗寺門派の大本山で、白河上皇熊野御幸の際増譽大僧正が先達を承り、その功に依り熊野三山の檢校職となつて修驗道の統轄を命ぜられ、一寺を下賜されたのが本院の起りである。現在の建物は延寶年間烏丸通今出川の地からここに移された際、造營されたものである。天明八年正月三十日内裏炎上の際、光格天皇はここに御避難あらせられ、寛政二年十一月二十二日まで假皇居となし給うた。又安政元年四月六日内裏炎上の際にも、孝明天皇は皇子祐宮(明治天皇)と共に難を避け給ひ、同月十五日まで御駐輦あらせられたところである。



お茶の井の清泉

史蹟
16 慈照寺(銀閣寺)舊境内

左京區銀閣寺町
浄土寺銀閣寺山
(市電「銀閣寺道」下車東)

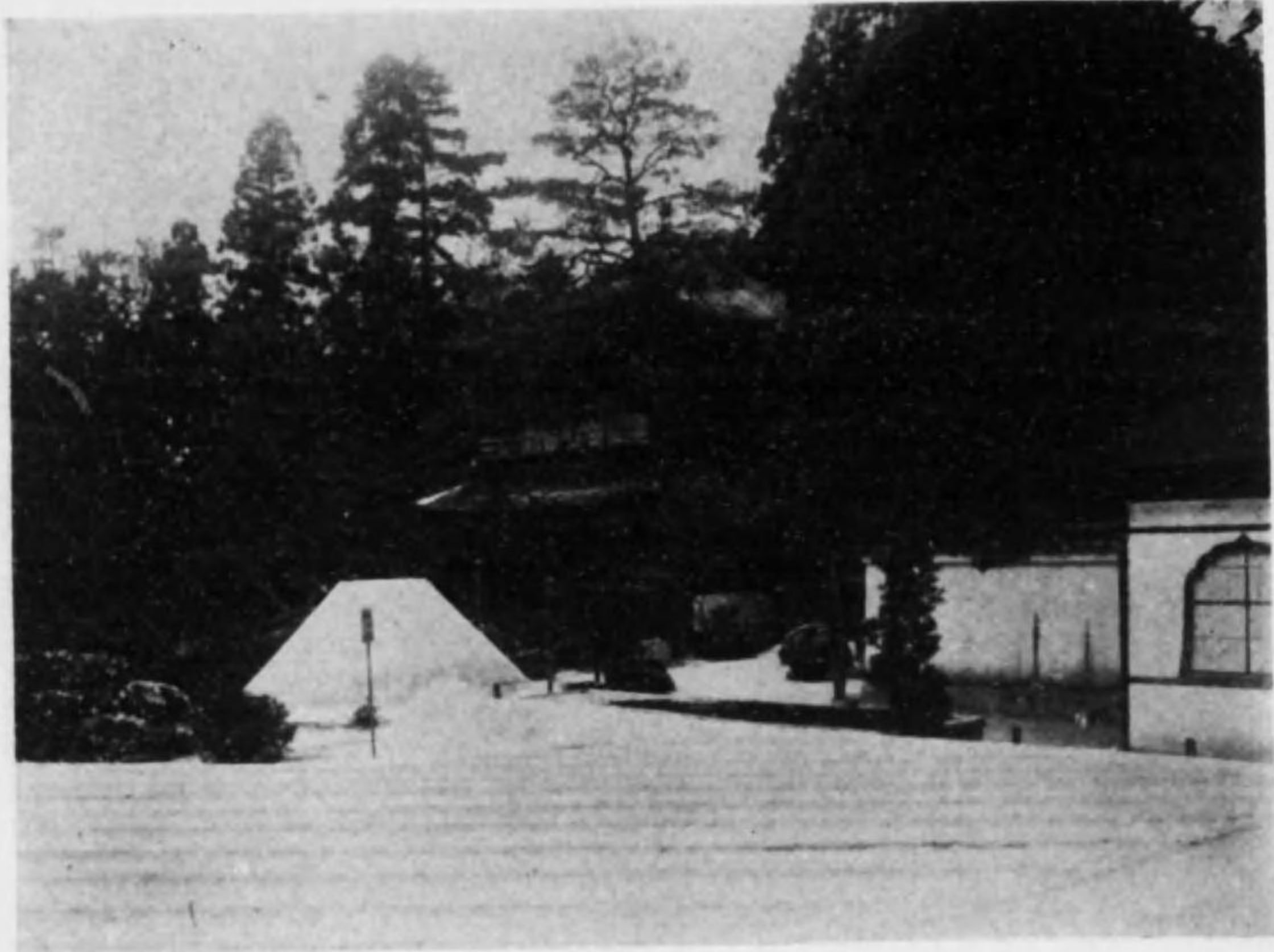
足利將軍義政が隠棲してゐた別業東山殿を、その遺命に依り禪刹に改めたのが此の寺の起りで、臨濟宗相國寺派に屬する。

義政は祖父義滿に倣つて、早く將軍職を子義尚に譲り、應仁文明の戦亂をよそにこの山莊の營作に數奇を凝らし、その名も義滿の北山殿に對して東山殿と呼んだ。義政の死後、遺命により骨を山莊内西指庵の床下に埋めたが、後相國寺慈照院に遷された。爾來次第に舊容を失ひ、當時の西指庵・漱蘇亭・超然亭なども何時しか廢絶し、今は纔に東求堂・銀閣並に庭園を遺すのみとなつた。

因に慈照寺舊境内として指定せられた區域は、近年發見せられた境外遺跡をも含めたものである。

二、北 部

銀閣寺庭園(銀閣・向月台・銀砂灘)



史蹟及名勝
17 銀閣寺(慈照寺)庭園
左京區銀閣寺町
(市電「銀閣寺道」下車東)

文明十五年、足利義政が東求堂を造營するに當り相阿彌に命じて作らしめたもので、石組を主とした廻遊式の庭園である。

東求堂とうぐだうと銀閣との間に錦鏡池を穿ち、島を築き、石橋を架し、多數の景石を配して善美の限りを盡したものである。而して近年發掘せられたお茶の井の石組が、松尾の西芳寺の清泉龍淵水の手法に酷似してゐるところから、作庭に際り相阿彌が西芳寺を範としたことが、如實に見られることとなつた。錦鏡池の邊を畫の庭とし、月待山に昇る月の光を、白砂を盛り上げた向月臺かうげつだいや銀砂灘ぎんしゃなだに映じて夜庭の美觀を添へたことは、相阿彌獨特の意匠で、よく東山時代藝術の粹を表したものといはれる。



史蹟
18 詩仙堂

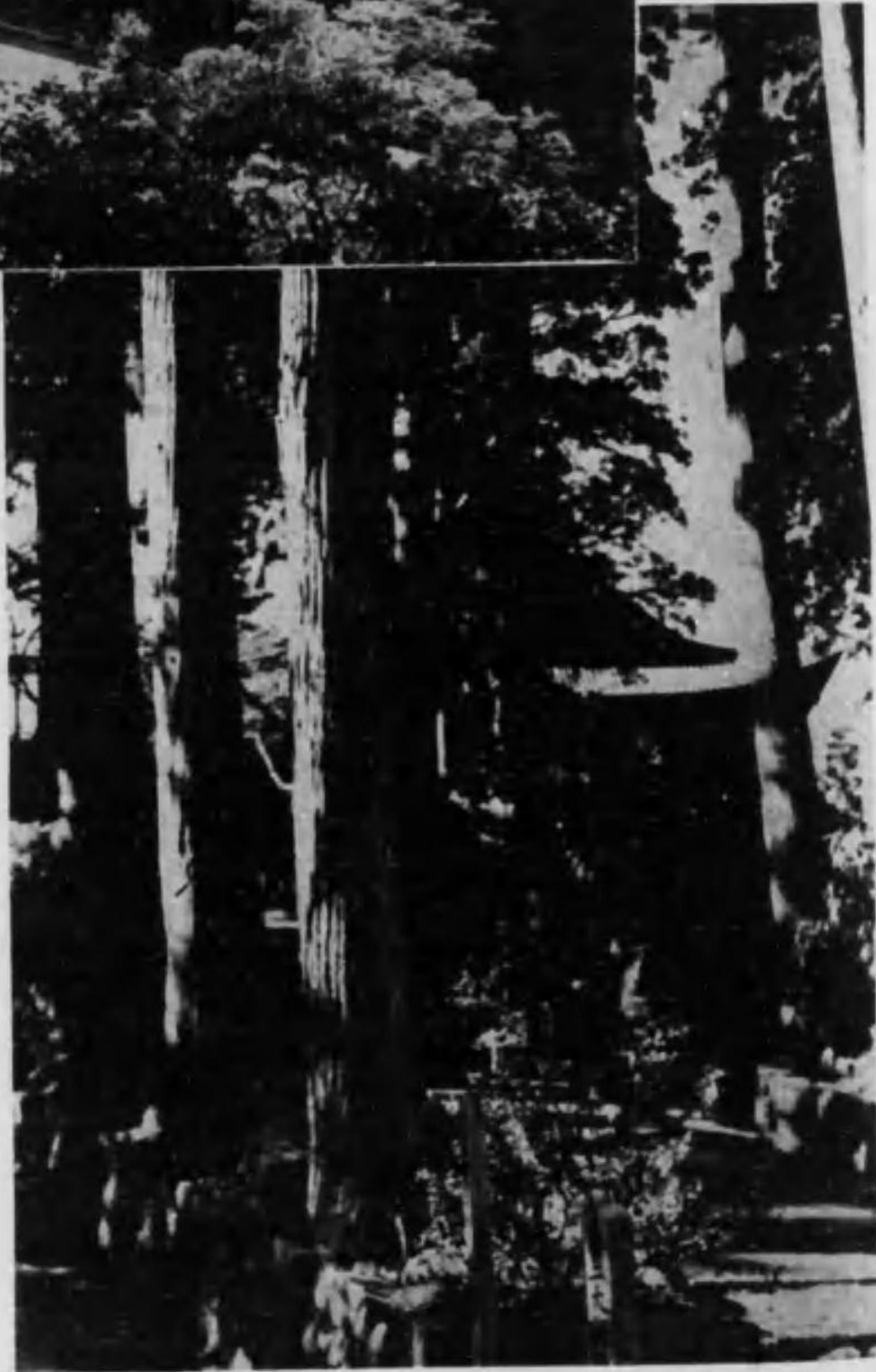
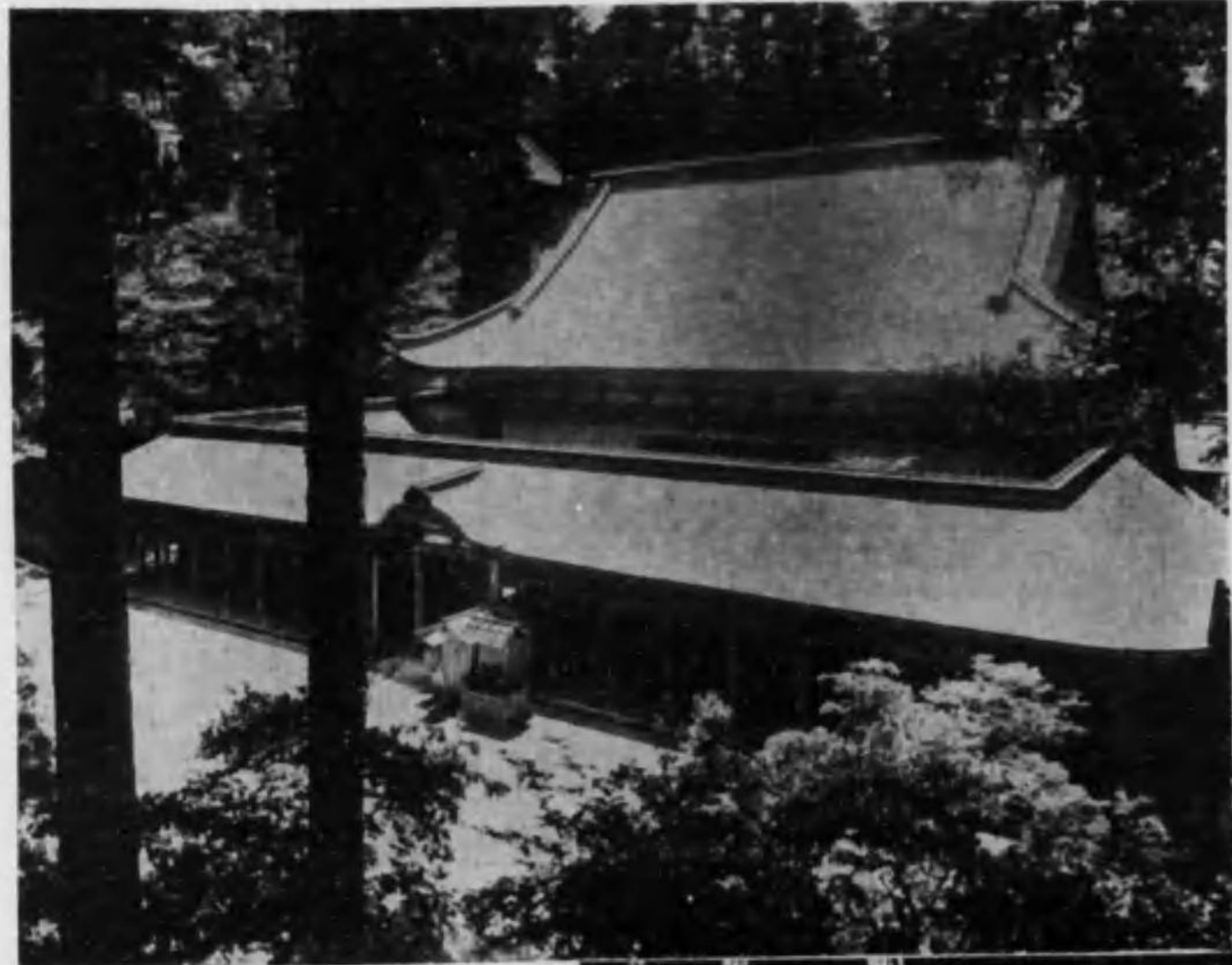
左京區一乗寺小谷町
(叡山電線「一乗寺」下車東)

史蹟
19 石川丈山墓

左京區一乗寺松原町
(叡山電線「一乗寺」下車東南)

詩仙堂は江戸時代初期の詩人石川丈山の隠棲した跡で、丈山が本邦三十六歌仙に擬して狩野探幽筆の支那三十六詩仙像を居室の四壁に掲げたところから詩仙堂と名づけられた。丈山は三河の人で、年少夙に徳川家康に仕へ、大阪夏の陣に先陣の功を争つて拔擢したので家康の怒を買ひ、致仕して剃髪し、京都に上り來つて悠々自適の生活を送つた。寛文十三年五月二十三日齡九十を以て歿し、その遺骸を、丈山が生前墓所と定めた詩仙堂東南の舞樂寺山中に葬つた。墓碑は高さ八尺餘の自然石で、丈山の友人野間三竹の撰文を陰刻してある。

大講堂附近の樹林
←延暦寺根本中堂



史蹟

20 延暦寺境内

左京區修學院尺羅ヶ谷四明ヶ嶽
愛宕郡八瀬村大黒町・八町

21 比叡山鳥類蕃殖地

天然紀念物

(叡山電車「八瀬」下車)
(叡山ケーブル「四明ヶ嶽」下車)

延暦寺は天台宗の總本山で、延暦年間宗祖傳教大師が開基した寺である。國家鎮護の道場として歴代皇室の御尊崇篤く、圓仁(慈覺大師)・圓珍(智證大師)・良源(慈惠大師)等の名僧高德が輩出し、法然(圓光大師)・親鸞(見真大師)・日蓮(立正大師)各上人も亦ここを修行の地と選び、寺勢頗る盛であつた。

建武の中興後、足利尊氏が叛するや、後醍醐天皇は延暦寺へ難を避けられたことも兩度に及んだ。元龜年中織田信長に焼討せられて一山悉く焼亡したが、豊臣・徳川二家の庇護によつて漸く寺觀を整へるに至つた。

境内は聖地として永く殺生を禁ぜられ、老杉古檜が鬱蒼と繁茂してゐるので、小禽類の棲息蕃殖するに適し、三光鳥・大瑠璃等その數六十種を超えるといふ。中でも三光鳥は靈鳥として有名である。



岩倉具視幽棲舊宅

史 蹟
22 岩倉具視幽棲舊宅

愛宕郡岩倉村門前町
(鞍馬電鐵「岩倉」下車北)

文久二年、岩倉具視が朝議を蒙り、出仕を停められてからのち慶應三年勅免せられるまで謹慎蟄居してゐたところである。

具視は蟄居の身ながらも、三條實美を始め西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允等の志士と謀を通じ、維新の大業を翼賛し奉つた。

此の舊宅は藁葺平家建二棟で、一棟は具視が隱棲に際り買ひ受け、他は幽棲中に増築したものである。

具視の薨後、その遺髪を此の地に埋め、明治十八年石碑を建設した。碑面には圖書頭井上毅の撰文を刻してある。

近年發掘の栗栖野瓦



史蹟
23 栗栖野瓦窯址

愛宕郡岩倉村幡枝
(鞍馬電車「木野」下車南)

平安京奠都に際り、諸官衙・社寺等の用瓦を製した栗栖野瓦窯の遺址である。

現在窯址のある幡枝は昔の栗栖野郷の一部に當り、遺址は部落内の各所に散在するが、最も舊規を存してゐるのは城山と呼ぶ丘陵に残存するものである。その構造は平窯に屬し、平面略七尺に五尺の矩形をなす瓦床と、坑道並に火床となり、往時の官窯の構造や製作工程を窺知し得るものである。窯址の附近で發見せられた古瓦は、鎧瓦・唐草瓦・丸瓦・平瓦・裏瓦・鬼瓦・鴟尾の一式で、中には栗栖野の製瓦を示す「栗」・「木工」の窯印を有するものもあり、大極殿等の宮殿に用ゐられた碧釉瓦なども多く發見せられる。



深泥池

天然紀念物
24 深泥池水生植物群落

上京區上賀茂深泥池町
(北大路橋西詰より鞍馬バス「深泥池」下車)

深泥池は泥濘池又は御菩薩池とも書き、周回約十八町の沼であり、最深部に於ても六尺内外に過ぎないが、池底は泥土の堆積が厚いのでこの名が起つた。

此の池は昔から有名で、淳和天皇が親しく禽獵せられたこともあり、又彌勒菩薩が池上に現はれたといふ傳説もある。俗に御菩薩池と謂はれる所以である。

池中には、美味を以て知られる蓴菜其の他學術研究の好資料となる水生植物が群をなして繁茂してゐる。

特殊な景觀をなす池邊の浮島は、池底の根莖層が暑熱の作用で浮び上つたものといはれ、その成因を珍重がられる。

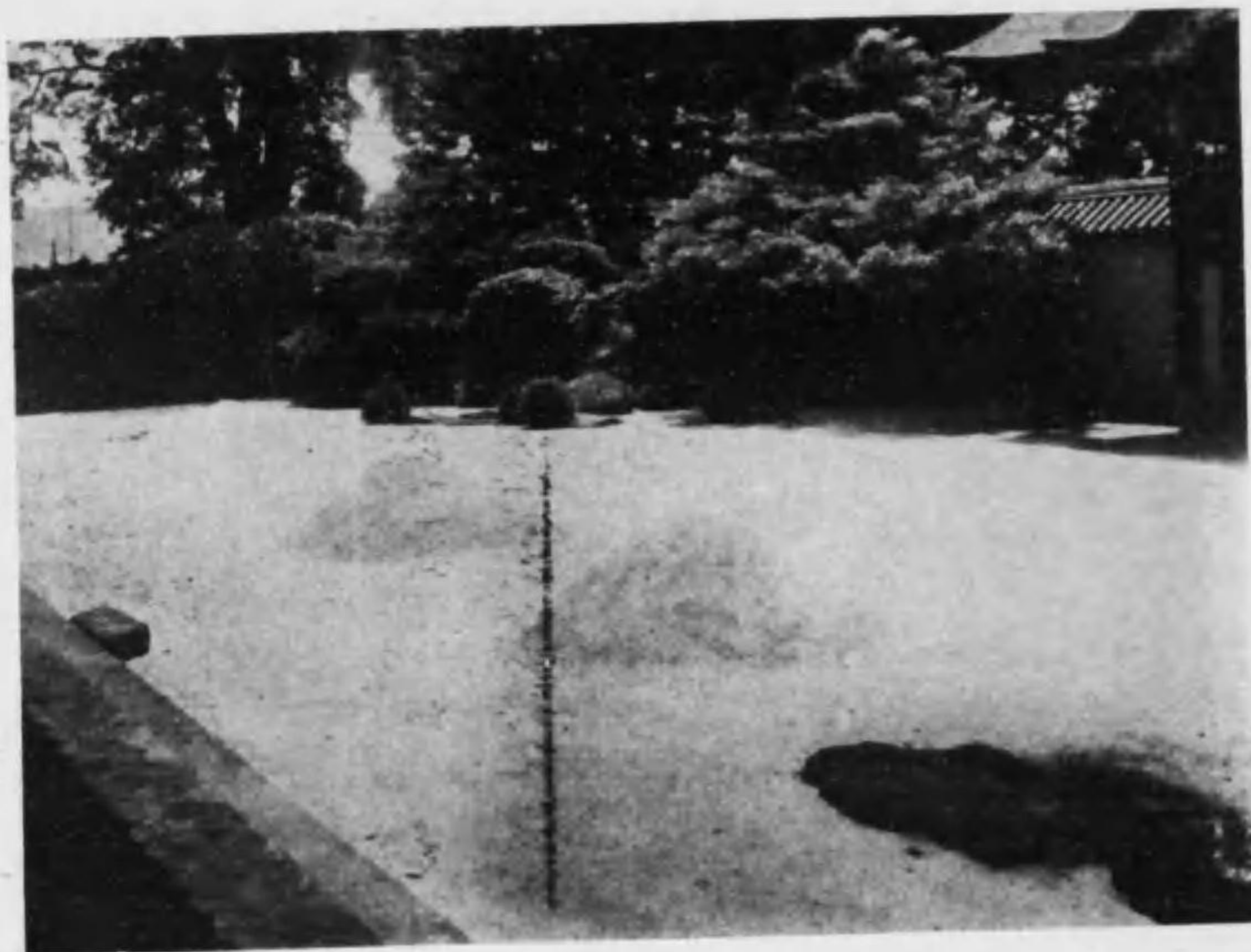
御土居(北野附近)



史蹟
25 御土居

上京區 賀茂玄以町・大宮上岸町・大宮土居町・大宮
西土居町・鷹ヶ峰舊土居町・平野鳥居前町・
北之邊町
中京區 西ノ京中合町

天正十九年豊臣秀吉が、京都の市區整理を行つた時、洛の内
外を区分して築造した土牆である。昔は東寺四塚から西院、
北野を経て鷹ヶ峰に至り、東に折れて賀茂川傳ひに四塚へと、
京都を圍繞してゐたもので、その延長は約六里に及んだ。概
ね、土壘の外側に濠を穿ち、要所には番舎を設けて帝都の警
固に備へたものであるが、その後次第に破壊せられて、今は
纒に西賀茂・鷹ヶ峰・北野其の他に残存するのみである。



大徳寺方丈庭園

史蹟及名勝
26 大徳寺方丈庭園

上京區紫野大徳寺町
(市電「大徳寺前」市バス「紫野
門前町」下車)

大徳寺は今から六百餘年前、大燈國師が建立した臨濟宗の
大本山である。花園・後醍醐兩天皇の御歸依を賜はつたのを
初めとして、歴代皇室の御尊崇篤く、數度の火災に罹つたが、
その都度再建せられ、現在の伽藍は、概ね天正から寛永にか
けて營まれたものである。

庭園は寛永十三年方丈再建の際築造されたものといはれ、
東・南の二庭に分れ、孰れも白砂を敷き、南庭はその東南隅
に常緑樹を植ゑ、二個の巨石を樹て、瀧を象つてゐる。東庭
は小石を七五三に配し、間に躑躅を植ゑて副景となし、二重
籬で圍んである。此の生垣越に比叡の秀峰を借景して簡勁優
雅の中に豪放の氣宇をしのばせてゐる。

史蹟及名勝
27 大仙院書院庭園

上京區紫野大徳寺町

(市営大徳寺前)市バス「紫野門前町」下車

大仙院は、今から約四百餘年前、六角近江守政頼が、その子古岳和尚を開山として建立した大徳寺の塔頭である。國寶の方丈には本尊釋迦如來を安置し、その襖繪は狩野元信の描くところである。古岳和尚は大徳寺七十六

世の住持で、後奈良天皇から正法大聖國師の號を賜うた。

庭園は枯山水の石庭で、相阿彌の作と傳へられる。東北隅の土塀近く二個の巨石を樹て、背景に椿を植ゑて瀧を象り、大小の景石を以て橋を架け、船を泛べ、溪水が瀧口から奔流する様を巧に表現してゐる。

古雅な方丈の建築美と調和して氣品頗る高く、枯山水式庭園中天下無雙のものといはれてゐる。



大仙院書院庭園

史蹟及名勝
28 眞珠庵庭園

史蹟及名勝

上京區紫野大徳寺町
(市営大徳寺前)市バス「紫野門前町」下車

眞珠庵は、後花園天皇の御代、泉州堺の宗臨が創建したといはれ、大徳寺塔頭の隨一である。初めは晴驢軒と號して、奇行を以て知られた一休禪師の庵室であつたが、のち焼失して延徳年間に再建されてから今の名に改まつた。當庵には一休禪師の墨蹟や肖像等を多く藏し、方丈は寛永十五年の建築で、國寶に指定せられてゐる。

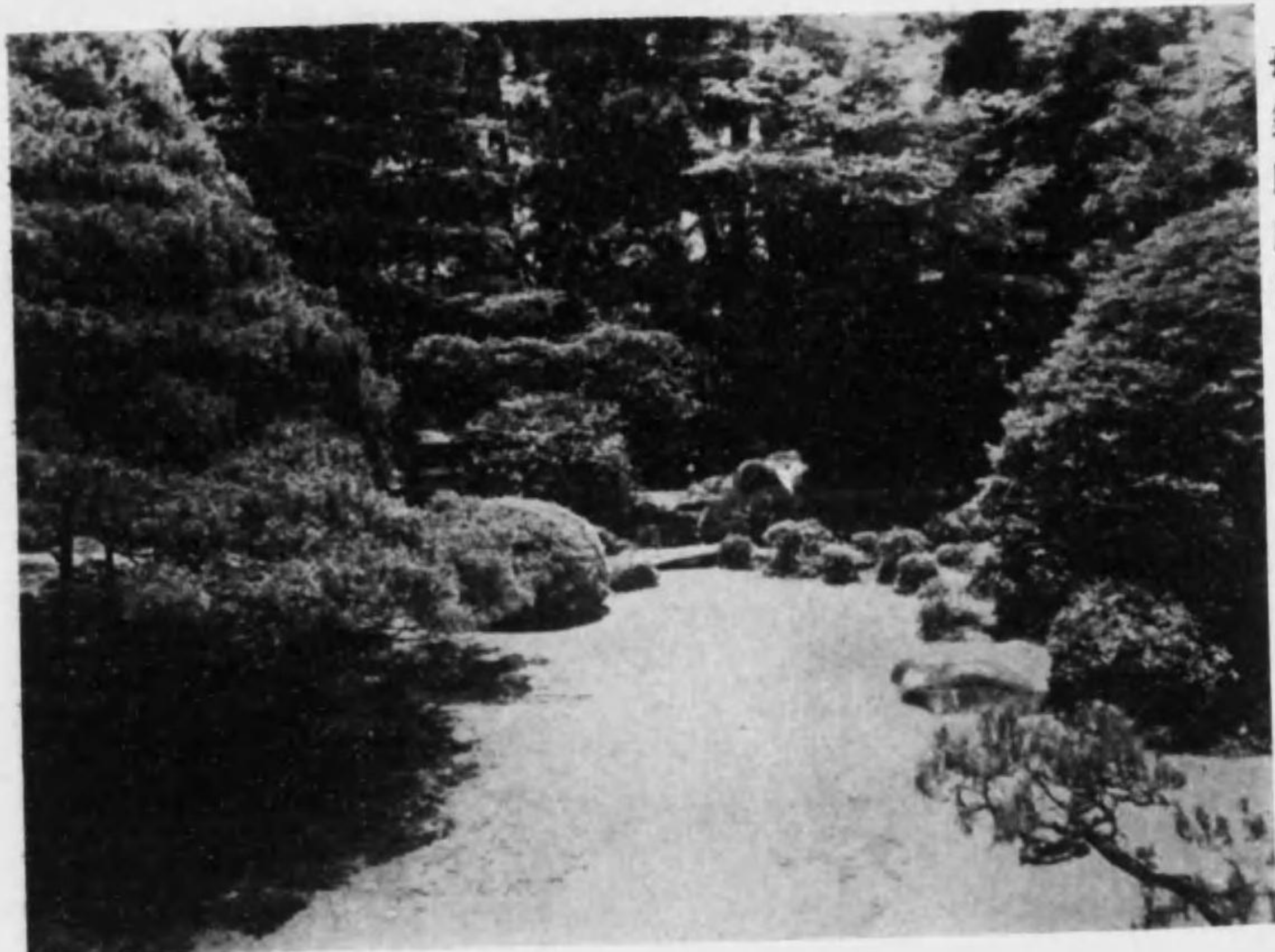
庭園は、一休禪師に參禪した村田珠光の作と傳へられ、方丈及び書院に配して造られてある。方丈の庭園は一名一休庵室の庭とも呼ばれ、南は生垣や刈込を以て景觀を作り、東は全庭苔に覆はれ、小石を七五三に配してある。書院の小庭には珠光遺愛の手水鉢や燈籠・歩石を布置して茶庭の觀を表してゐる。



眞珠庵庭園

三、西 部

孤篷庵庭園



29 史蹟及名勝
孤篷庵庭園

上京區紫野大徳寺町
(市電「船岡公園前」下車北)

慶長十七年、小堀遠江守政一まさゆきが大徳寺塔頭龍光院内に小庵を結び、その子江月和尚を開基として創建したもので、寛永年中今の地に移つた。眞珠庵、大仙院と共に大徳寺の塔頭であり、現在の建物は寛政五年炎上後の再建で、方丈・茶室・書院共に國寶である。小堀政一は禁裏並に幕府の作事奉行・伏見奉行等を歴任し、作庭・茶道・書畫に巧であつたので、その流派を遠州流と呼ばれる。

此の庭園も亦遠州の意匠といはれ、方丈前庭と忘はうせん茶室(茶室)・書院前庭及び茶室四方面の庭からなつてゐる。方丈前庭には象徴的な二重の籬を施し、忘茶・書院の前庭は近江八景を表現したといふ枯山水の平庭である。奥の茶室四方面の庭は、その名の通り四方よりの觀賞に技法の妙を凝らした茶庭である。

金閣寺庭園



史蹟及名勝
30 金閣寺(鹿苑寺)庭園

上京區衣笠金閣寺町
(市電「金閣寺道」下車、北野
よりバスの便あり)

鹿苑寺は俗に金閣寺と稱し、もと西園寺家の別業のあつたところである。足利義満は將軍職を義持に譲つてからは、此の地に別莊を營み、三層の金閣を建てて、大いに邸内を整備し、應永十五年三月八日、後小松天皇の行幸を仰いだ。

義満の死後、その遺命に依り夢窓國師を開基として禪利に改めたが、續く兵亂に次第に荒廢し、今は纔に金閣及び苑池に昔の佛を止めるに過ぎない。

庭園は義満の好尚に成つたもので、西園寺家所領當時の鏡湖池に金閣を泛ばしめ、出龜・入龜の二島を築き、諸大名の寄進にかゝる景石を配してゐる。其の他夕佳亭を始め、室町時代文化の豪宕雄壯さを髣髴せしめる名残が多い。方丈裏庭には名木「陸舟松」がある。



龍安寺「虎の子渡し」の庭園

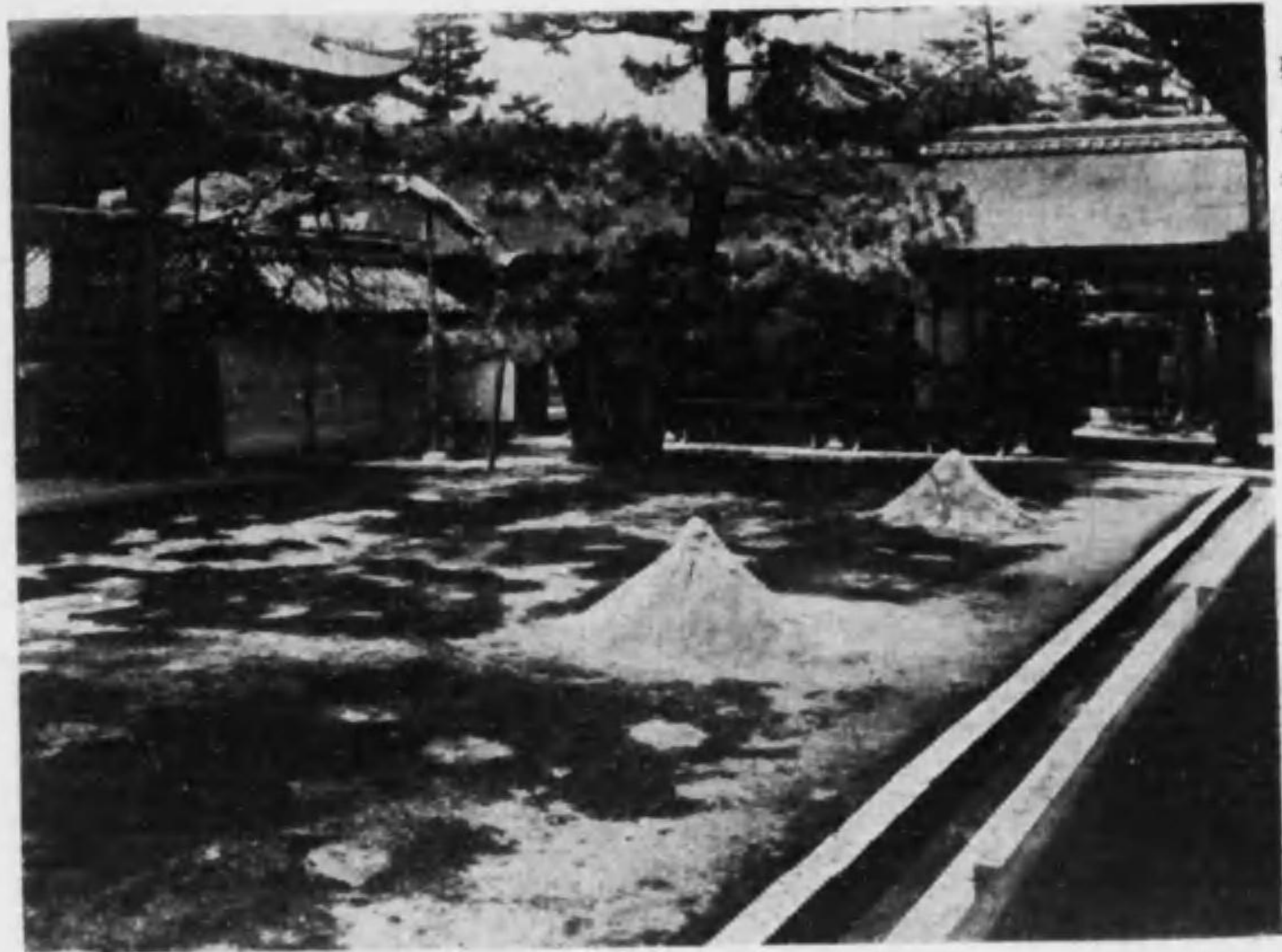
史蹟及名勝
31 龍安寺方丈庭園

右京區龍安寺御陵ノ下町
(嵐山電車「龍安寺道」下車北、西)

もと徳大寺左大臣實能の山莊のあつたところで、細川勝元が此の地を乞ひ受けて別莊を營み、其の歿後遺囑して妙心寺の義天和尙を開山とし、妙心寺派の禪利と改めた。往時は子院二十餘を數へ、寺運頗る盛であつた。

庭園は、東西約十七間、南北約八間の矩形をなし、一面に白砂を敷いて海洋に擬し、東から七五三の十五石を配して島嶼を表象してゐる。他に一木一草もなく頗る含蓄ある風韻を致し、俗に「虎の子渡し」と呼ばれてゐる。相阿彌の意匠になるものといひ、枯山水庭園の隨一である。

妙心寺庭園



史蹟及名勝
32 妙心寺庭園

右京區花園妙心寺町
(右京區「花園驛」又は嵐山電車「妙心寺」下車
北野又は千本丸太町よりバスの便あり)

花園天皇は深く禪宗に歸依せられ、無相大師關山を開山として、花園の離宮萩原殿の傍に禪刹を創建せられた。これが妙心寺の起りである。その後足利義滿の迫害に依つて伽藍は殆ど破壊されたが、雪江和尚の中興を経て、徳川時代には七堂伽藍整備し、寺運も頗る盛となつた。

伽藍の東庭には、雪江和尚の植えた老松があり、又、三門と佛殿との間には雪江門下の龍泉・東海・靈雲・聖澤の四派を表した四派の松がある。大方丈の前庭は、半ば苔に蔽はれた砂庭に老松を配し、塀を隔ててその東に小方丈の庭がある。

玉鳳院庭園



史蹟及名勝
33 玉鳳院庭園

右京區花園妙心寺町
(右京區「花園驛」又は嵐山電車「妙心寺」下車
北野又は千本丸太町よりバスの便あり)

花園天皇が關山和尚を請じて妙心寺を創建遊ばされた時、親ら御參禪のため、傍に一院を建立せられ、玉鳳院と名づけられた。されば玉鳳禪宮又は麟徳殿とも號し、花園天皇の御法體尊像や爪字の觀音を奉安する。正平十五年、關山和尚が入寂するや、その遺骨をこの院の東隣に葬り、開山堂微笑庵を建立した。今も妙心寺の塔頭院主は毎月輪番で、天皇並に開山に奉仕する習はしである。

庭園は微笑庵の東側庭園と、北隣の祥雲院前庭の二つに分れる。東側庭園は長方形の丘上に景石を配した江戸時代の作で、祥雲院前庭はその豪華奔放な技法から桃山時代の作といはれる。

東海庵書院庭園



史蹟及名勝
34 東海庵書院庭園

右京區花園妙心寺町
(省線「花園」又は嵐山電車「妙心寺」下車
北野又は千本丸太町よりバスの便あり)

東海庵は文明十六年に妙心寺中興の祖雪江和尚が、直弟悟溪和尚に寺地を與へて建立せしめた塔頭で、妙心寺四派本庵の一である。

悟溪和尚は尾張の人で、雪江和尚の印可を受けてから、美濃に下り瑞龍寺を建て教義を東海道地方に弘通した爲、その教義を東海派といふ。

書院庭園は文化十一年の築造といはれ、西方前庭及南庭の二つに分たれる。

西方前庭は平庭で、景石を布置して池を表はし、燈籠・手水鉢を備へるが、南庭は枯山水で小石を自由に配置し、共に清雅の趣に富んでゐる。

靈雲院庭園



史蹟及名勝
35 靈雲院庭園

右京區花園妙心寺町
(省線「花園」又は嵐山電車「妙心寺」下車
北野又は千本丸太町よりバスの便あり)

靈雲院は、今から約四百年前、藥師寺備後守の室清範尼の求めにより、大休國師がその師特芳和尚を開山として創建した妙心寺四派本庵の一である。特芳和尚は雪江和尚の高弟で、靈雲派の開祖である。大休國師は和尚の遺鉢を繼いで識徳一世に高く、後奈良天皇は深く國師に歸依せられて、屢ここに行幸遊ばされた。されば今もここには方丈の外に御幸の間と稱する國寶の書院があり、天皇が參禪せられた跡といふ。

庭園は是庵の作と傳へられ、方丈と御幸の間の中庭として造られたもので、極めて狭小な地域に樹石を繪畫的に配置し、頗る優雅な趣を具へてゐる。

退藏院庭園



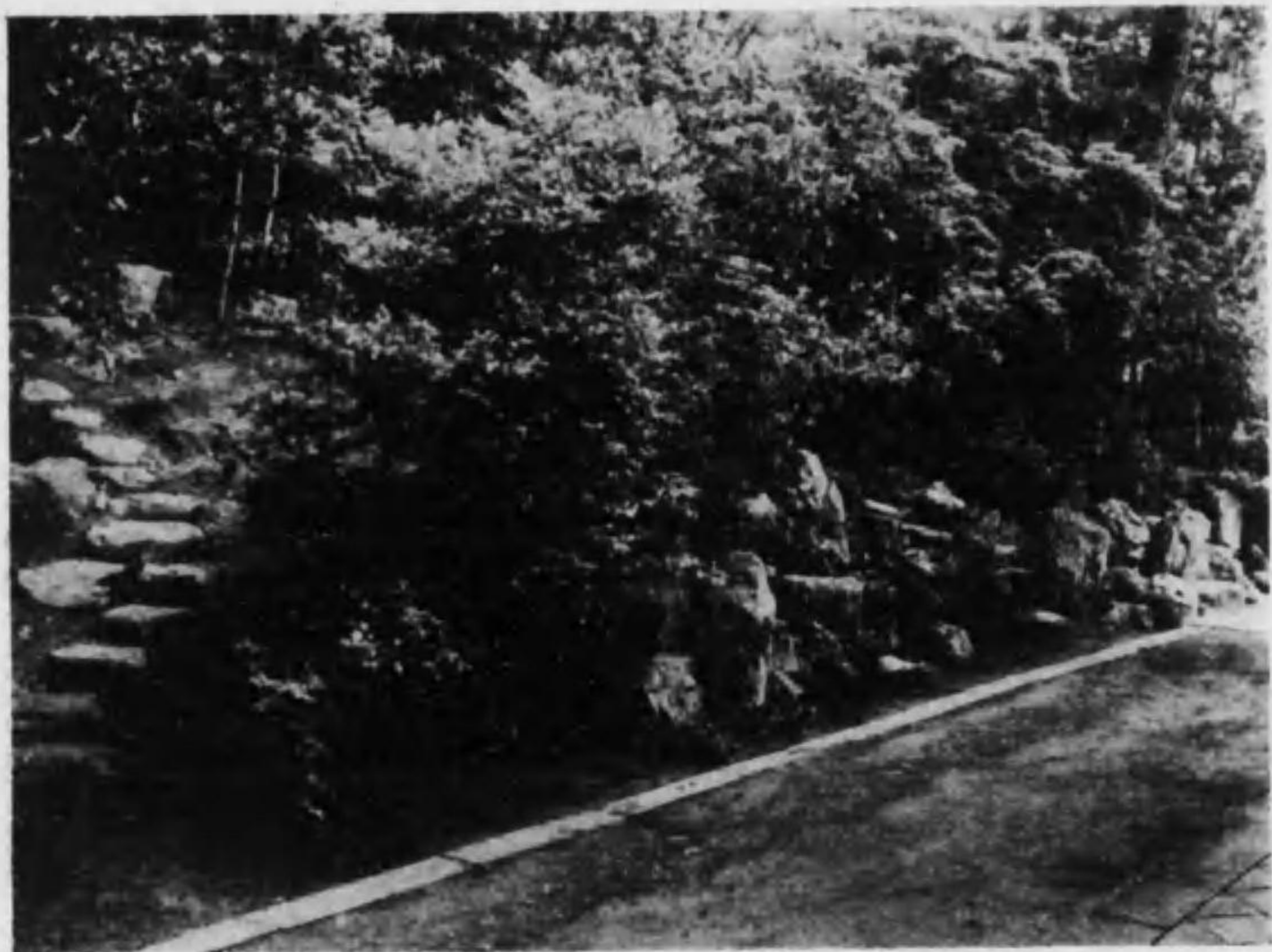
36 史蹟及名勝 退藏院庭園

右京區花園妙心寺町
(省線「花園驛」又は嵐山電車「妙心寺」下車
北野又は千本丸太町よりバスの便あり)

退藏院は、今から約五百餘年前、波多野出雲守重通が、妙心寺の三世無因禪師を開山として創建した塔頭である。のち龜年和尚が住するに及んで之を中興し、寺運愈盛となつた。

方丈の西にある庭園は枯山水で狩野古法眼元信の作といはれ、池泉を穿ち、水分石・三尊石・拜石等の景石を巧に池邊に配し、池中に島を築いて、頗る繪畫的に意匠を凝らした小庭で、閑雅掬すべきものがある。

桂春院庭園



37 史蹟及名勝 桂春院庭園

右京區花園寺ノ内町
(省線「花園驛」又は嵐山電車「妙心寺」下車
北野又は千本丸太町よりバスの便あり)

桂春院は、慶長三年美濃の豪族石河壹岐守貞政が、桂南和尚を請じて創建した妙心寺の塔頭で東海派に屬してゐる。

庭園は方丈の南、東及び書院前庭の三庭に分たれる。方丈南庭は北側の崖を躑躅の大刈込で蔽ひ、その下に東から椿・紅葉等を植ゑ、庭石を七五三風に組んで、地勢の變化を巧に利用し、飛石傳ひに方丈東庭に續けてある。書院前庭は同じく低地を利用した飛石本位のもので、燈籠を配置し、茶庭の觀を具へてゐる。

御室の櫻



名勝 38 御室 (櫻)

右京區御室大内
(嵐山電車又はバス(御室)下車)

仁和寺は、仁和年間、光孝天皇の勅願によつて創建せられた古義真言宗の門跡寺院である。宇多法皇が寺内に仙居し給うてから、御室と呼ばれるに至つた。現在の堂宇は約三百年前に御所の御殿や御門を下賜せられて再建したもので、その多くが國寶である。

境内には櫻樹極めて多く、俗に御室の櫻といひ、花時には境内は花見客で雜鬧する。現在保存法の適用を受けてゐる櫻は、中門を入つて左の觀音堂前に植栽せられた約二百三十株である。樹態は矮生で、一見躑躅の様な觀を呈し、その品種も有明・車返し・鬱金・普賢象等頗る多く、優婉の限を盡くしてゐる。

大澤池



名勝 39 大澤池(附名古屋曾瀧社)

右京區嵯峨大澤町
(愛宕電車(曾瀧社)下車東・北)

この池はもと、嵯峨天皇の離宮が設けられたところで、池は支那の洞庭湖に似てゐるところから、庭湖ともいふ。池中には二島あつて、大なるを天神島と稱して菅公を祀り、小なるを菊ヶ島といつて、嵯峨天皇が菊花を植ゑられたと傳へてゐる。島の間に見える石は庭湖石といつて巨勢金岡が配置したものとといひ、昔から珍重せられてゐる。

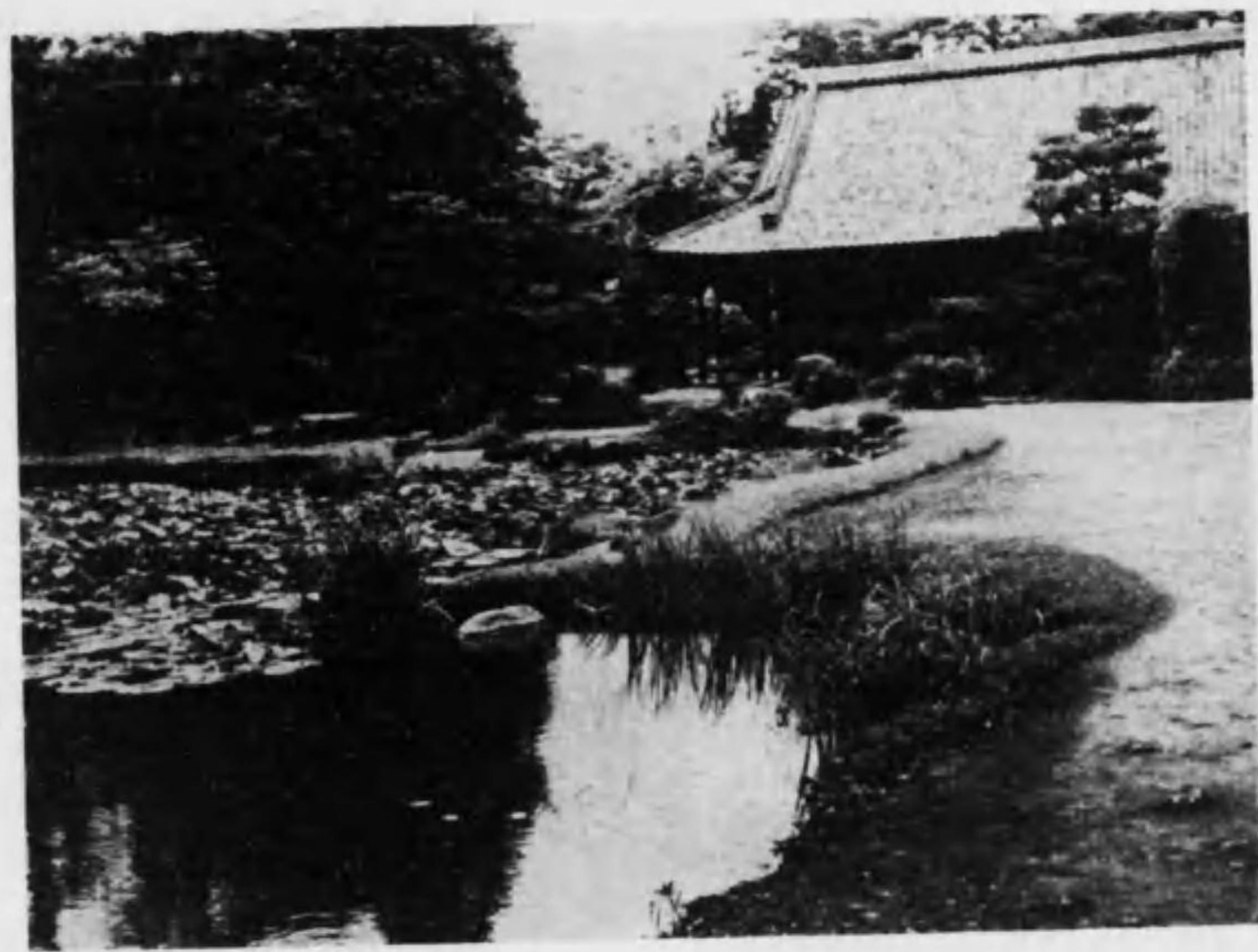
大納言藤原公任の

瀧の音は絶えて久しくなりぬれど

名こそ流れてなほ聞えけれ

の歌で有名な名古屋曾瀧はこの池の北にあつたもので、今に其の趾が残つてゐる。池岸には櫻樹多く、花の名所として知られ、秋はまた月を賞するによい。

天龍寺庭園(曹源池)



40 天龍寺庭園

史蹟及名勝

右京區嵯峨天龍寺芒ノ馬場町
(省線「嵯峨線」又は嵐山電車、嵐山バス
「嵐山」下車)

天龍寺は、後醍醐天皇の御冥福を祈るため、足利尊氏が夢窓國師の勧めにより創建した臨濟宗の大本山で、此の邊はもと檀林皇后の建立遊ばされた檀林寺や、その趾に仙居せられた龜山天皇の龜山殿があつたところである。

開山夢窓國師は疎石と稱し、作庭の妙を極め、各所に苑池を築いたが、中にも天龍寺庭園は尤も意を注いだものであつた。然し後世數度の火災に遭ひ、國師の意匠に成る十境も多く舊觀を失ふに至つたが、方丈西の庭園のみは、最もよく舊規を保ち、中心に曹源池を穿ち、龜山の麓に龜尾瀧を懸け、池中に辨天島を築いて、昔時の佛を止め、閑寂幽玄の趣に富む池泉である。

嵐山



41 嵐山

史蹟及名勝

右京區嵯峨
(省線「嵯峨線」又は嵐山電車、
新阪電車、嵐山バス「嵐山」下車)

嵐山は古來その山容水態の美を以て天下に聞え、附近には天龍寺を始め、臨川寺・法輪寺・小督塚・龜山公園等多くの名所舊蹟を蔵して、春の櫻・初夏の新緑・秋の紅葉・冬の雪景と四時観る人の目を悦ばしめる。

初めは紅葉の美を以て知られ、桓武天皇の行幸以來、秋には列聖の臨幸相繼ぎこの勝景を賞し給ひ、三船の御遊も履行はれたが、龜山天皇が吉野の櫻を移植せられてから、春の眺めも、一入美しくなつた。

毎年五月十四日、大堰の清流に龍頭鎧首の三船を泛べて舟遊祭を舉行し、往古の雅びを今に再現せしめる。

慶長年間角倉了以は大堰川の岩石を開鑿して遠く丹波保津村から舟筏を通じた。今も山中の大悲閣には了以の像が安置してある。

西芳寺庭園(湘南亭)



42 西芳寺庭園

史蹟及名勝

右京區松尾神ヶ谷町
〔新京阪電車「上桂」下車又は嵐山バス
「西芳寺前」下車〕

西芳寺は今から一千二百餘年前、聖武天皇の勅願により僧行基が開基した寺と傳へ、のち夢窓國師が再興してから臨濟宗に改めた。本堂は西芳精舎又は西來堂と稱し、後の山には行基の行場と傳へる舊蹟がある。

庭園は夢窓國師の作で、數度の兵燹にその舊態を變へたが、猶上部・下部の二庭に劃せられることは國師の築造當初と異ならない。上部庭園は枯山水で、龍淵水・坐禪石を配し、山上に今はなき縮遠亭、山腹に指東庵を建て、麓に向上關をしつらへ、下部庭園は中心に心字型の黄金池を穿ち、景石を配して南北の池岸に潭北・湘南の二亭を配してある。國寶の湘南亭は一時岩倉具視が隠棲した跡であり、全庭には綠苔が彌が上にも繁茂してゐるので、世人此の寺を呼んで苔寺と言ふ。



天皇の杜古墳

43 天皇の杜古墳

史蹟

右京區御陵塚ノ越町
〔七條大宮より龜岡行バスにて
「三宮神社前」下車北〕

此の古墳は東向の緩かな傾斜地に、墳の正面を南にし、主軸を南北に置いて築造せられた前方後圓墳である。前後の長さ二百八十尺、後圓部の基底徑百七十尺、東面の高さ二十四尺、前方部は後圓丘より八尺低く、正面の幅は百五尺である。後圓部の頂上には、俗に文徳天皇を奉祀するといふ祠があり、文徳天皇の御陵とも傳へられてゐる。祠をめぐる巨樹繁茂し、森嚴の氣に充ちてゐる。

四、南
部

遊
龍
松



44 天然紀念物
遊龍松

乙訓郡大原野村小鹽
〔西向日町〕下車西

遊龍松は善峰寺の境内にある。徳川綱吉の母桂昌院が始めて植ゑたものといひ傳へる。主幹は周圍約六尺、高さ僅に三尺内外であるが、横枝の延長は北方約七十一尺、西方約七十七尺にも及ぶ五葉の松で、人工により異常の發育を遂げた珍種である。

この寺は天台宗、西國三十三所第二十番の札所である。今から約九百年前、開山源算上人が、この山に草庵を結び、七晝夜の間石上で坐禪したとき、一老翁から佛寺の建立を望まれ、群猪の力を藉つて三尾四谷に寺院五十餘宇を創建したといふ。其の後慈鎮和尚を始め、覺快外四法親王も居住せられて當時西山の宮と稱せられた。本堂の本尊千手觀世音は弘法大師の作といふ。

教王護國寺境内



45 史蹟 教王護國寺境内

下京區九條町
(市電、市バス「東寺東門前」下車)

平安京造營の昔、羅城門の東西に建てられた官寺の二で、西寺に對して東寺と稱したが、嵯峨天皇は之を弘法大師に賜はり、教王護國寺と改稱された。歴代皇室の御崇信深く、後宇多天皇は當寺で御修行遊ばされ、後醍醐天皇は隱岐より還御の節元弘三年六月四日、ここに御駐輦遊ばされた。毎年一月八日から十四日まで御修法を行ひ、聖上の御衣を奉じて聖壽無窮を祈り奉る定めがある。

境内には、出土古瓦、礎石の外昔時の遺構を存するものは少いが、豊臣・徳川二家の再建にかゝる國寶建造物が多い。

西寺址



46 史蹟 西寺址

下京區唐橋門脇町・唐橋川久保町
(市バス「千本四條」下車西・北)

平安京造營の昔、東寺と共に羅城門の西に建てられた官寺の二で、右寺ともいつた。勤操僧正や守敏僧都等の高僧が多く住し、守敏僧都は、弘法大師が東寺を賜はつたに對し、西寺を賜はつた。以來朝野の尊崇篤く、結構壯麗を極めたが、其の後漸く衰微し、鎌倉時代には尤も甚だしく荒廢するに至り、纔に遺つた塔婆一基も天福年間には焼失し、爾後再建のことなく、今は舊域附近の一字にその名を残すのみである。指定地域内には西寺金堂址と傳へる土壇があつて、古瓦の出土する外他に遺構の存するものもないが、昭和八年五月、附近の謙達稻荷神社の北、唐橋門脇町から地下二尺に埋存した礎石が発見せられた。

荷田春滿舊宅



史蹟
47 荷田春滿舊宅

伏見區深草藪ノ内町
(省線「稻荷驛」又は市電・市バス・
京阪電車「稻荷」下車)

荷田春滿は今から約二百七十年前の寛文九年正月三日、稻荷神社祠官の家に生れた。早くから和歌に長じ、僧契沖の後を承けて萬葉集の解讀に専念し、國學の基礎を固めた人で、元文元年七月二日齡六十八歳で歿した。その門人賀茂眞淵や本居宣長・平田篤胤と共に國學の四大人といはれる。

春滿の起居した邸宅は、母屋・門・神事舎等がそのまま今に残つてゐて、大人在世の當時を髣髴せしめるものがある。

東隣の東丸神社は、明治十六年の創建になり、大人の靈を祀る府社である。

安樂壽院



48 明治天皇御小休所安樂壽院 (史蹟)

伏見區竹田内畑町
(市電又は奈良電車「城南宮前」
下車)

安樂壽院は新義眞言宗智山派に屬し、今から約八百年前、鳥羽上皇が覺行法親王を導師として創建し給うた寺で、鳥羽離宮又は竹田御所と稱せられた地内に當る。上皇の御叔信殊に篤く、永治元年此の地で御落飾ありて院政をみそなはせられた。今も此の地には 鳥羽天皇安樂壽院陵及び 近衛天皇安樂壽院南陵がある。

明治天皇は近畿・中國・九州御巡幸の際、明治五年六月四日、當院の本坊書院に御小休遊ばされた。

又鳥羽伏見の戦に際しては官軍の大本營や薩軍の本陣の置かれた史蹟である。

平等院庭園



史蹟及名勝
49 平等院庭園

久世郡宇治町
〔省線「宇治」又は京阪電車
「宇治」下車〕

もと河原左大臣源融の別業のあつたところで、陽成天皇は此の地に離宮宇治院を営ませられた。のち藤原道長が此の地に別荘を営み、その子頼通之を寺とし、定朝作の阿彌陀像を安置した。これが平等院の起りである。往時は伽藍堂塔整備してゐたが、屢兵燹に罹つて概ね炎上し、今は纔に阿彌陀堂のみ昔時の名残を止めてゐる。

阿彌陀堂はまた鳳凰堂と呼ばれ、藤原時代の藝術の粹を蒐め、平安朝宮殿の特色である寢殿造になつた佛殿である。堂前の苑池を阿字池といふ。前に宇治の清流や朝日山の翠櫓を収めて頗る閑寂優雅な趣に富んでゐる。

三寶院庭園



史蹟及名勝
50 醍醐寺三寶院庭園

伏見區醍醐東大路町
〔三條大橋又は六地藏より京阪
バス「三寶院前」下車〕

三寶院は醍醐寺十四世勝覺が創建した寺で、もと灌頂院といつた。醍醐寺の一院家であつたが、室町時代の初め、當院の賢俊・滿濟の兩門主が重用せられてから、座主の住院となつた。

庭園は方丈・唐門等と共に、慶長三年豊臣秀吉が竹田梅松軒を庭奉行として築造したものである。秀吉は先づ諸堂宇の整備を待つて同年三月十四日、醍醐の花見の宴を催し、のち自ら設計して造園の工を起したが、此の園の完成を見ることなく八月十六日遂に薨じた。

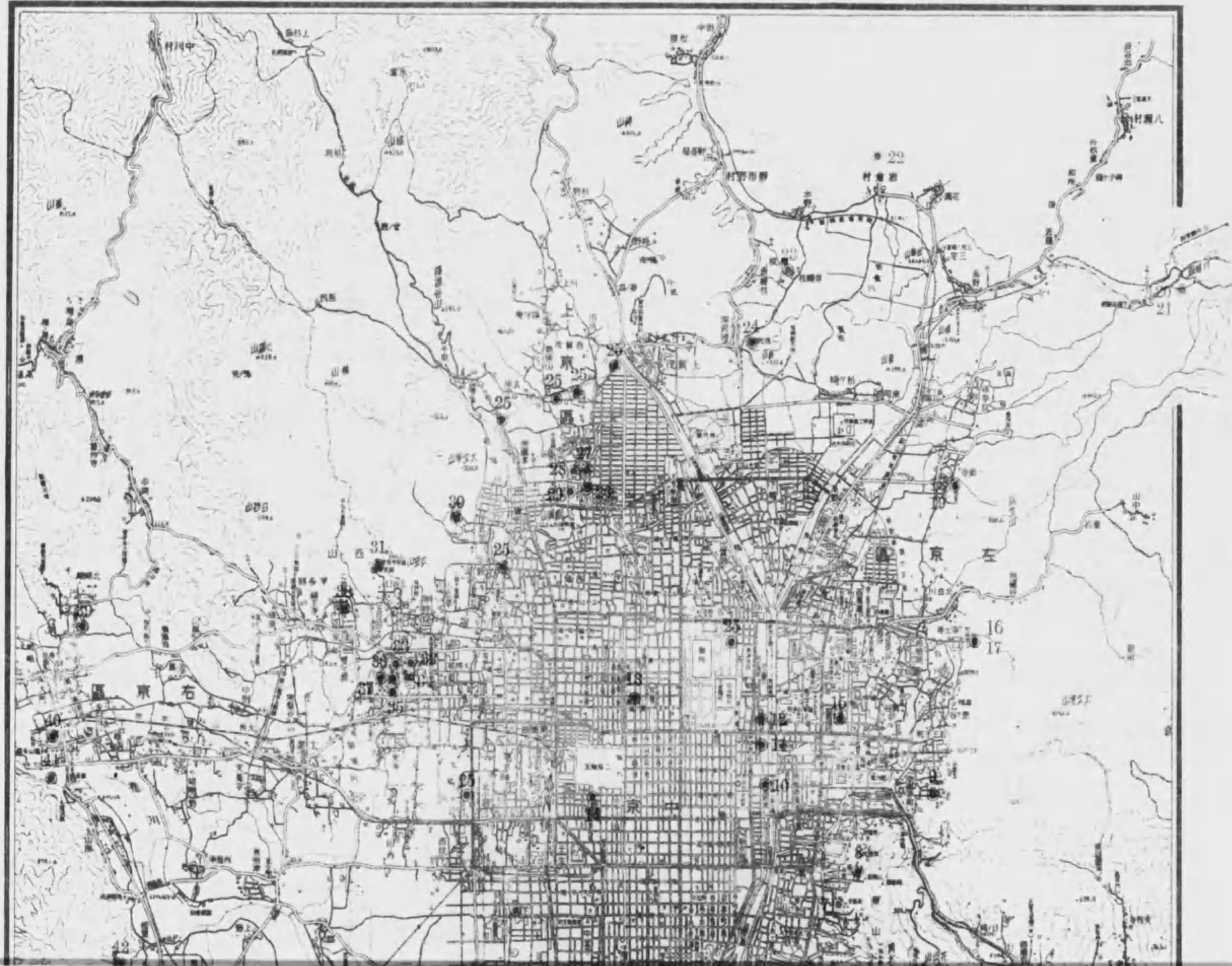
この園は平安時代の寢殿造に倣つた林泉に、鎌倉・室町兩時代庭園の趣を加へ、桃山時代の豪宕清雅な氣韵を表はしたものである。

西部											
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25
退藏院庭園	雲院庭園	東海庵書院庭園	玉鳳院庭園	妙心寺庭園	龍安寺方丈庭園	金閣寺(鹿苑寺)庭園	孤篷庵庭園	眞珠庵庭園	大仙院書院庭園	大徳寺方丈庭園	御土居
タ	タ	タ	タ	省線「花園驛」又は嵐山電車「妙心寺」下車 北野又は千本丸太町よりバスの便あり	嵐山電車「龍安寺道」下車北西五町	市電「金閣寺道」下車、又は北野よりバスの便あり	市電「船岡公園前」下車北三町	タ	タ	市電「大徳寺前」、市バス「紫野門前町」下車	1 上京區賀茂玄以町(鞍馬バス「上賀茂」又は 2 大宮上岸町(市バス「上岸町」下車 3 大宮土居町(市バス「竹殿町」下車西 4 大宮西土居町 5 平野鳥居前町(市電「北野」下車西・北 6 鷹野舊土居町(市電「千本北大路」下車北八町 7 北之邊町(市電、市バス「白梅園子」下車西 8 中京區中合町(市電「西大路御池」下車西
タ	タ	タ	規定なし、心持の 程度	大人 十錢 小人 五錢	大人 五十錢 小人 二十五錢	大人、人 學生、團體半額	規定なし、心持の 程度	規定なし	規定なし、心持の 程度	大人 五十錢 學生	
							紹介状の携帯を要す	特に紹介状の携帯を要す			

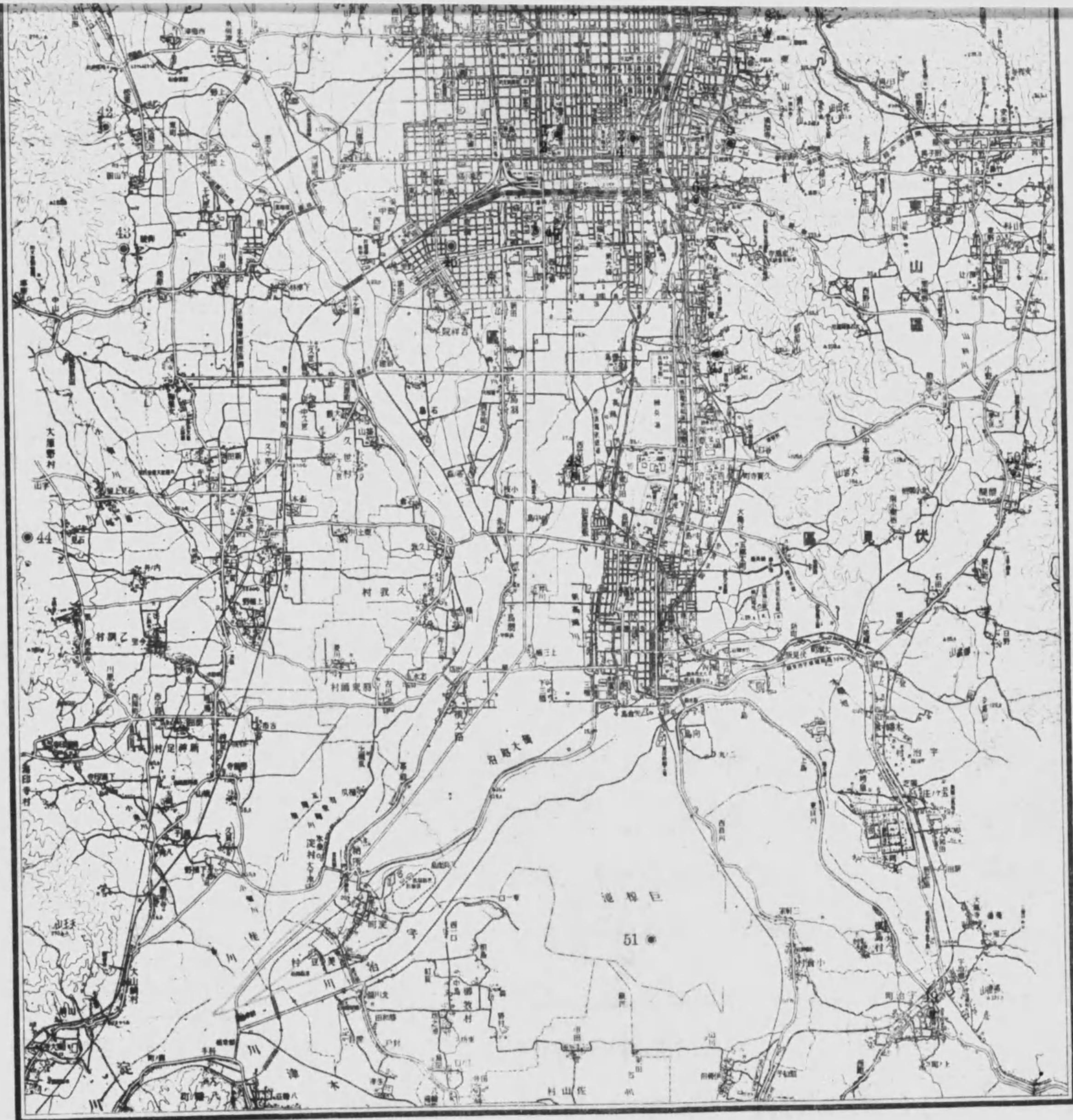
北部													
24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
深泥池水生植物群落	栗栖野瓦窯跡	岩倉具視幽棲舊宅	比叡山鳥類蕃殖地	延暦寺境内	石川丈山墓	詩仙堂	銀閣寺(慈照寺)庭園	慈照寺(銀閣寺)舊境内	聖護院舊假皇居	神泉苑	伊藤仁齋宅(古義堂)趾並書庫	頼山陽書齋(山紫水明處)	明治天皇行幸所木戸邸
北大路橋西詰より 鞍馬バス「深泥池」下車	鞍馬電鐵「木野」下車南十町	鞍馬電鐵「岩倉」下車北・西十二町	叡山電鐵「八瀬」下車 叡山ケール「四明嶽」下車	タ	東入南十町	叡山電鐵「一乗寺」下車東八町	市電「銀閣寺道」下車東六町	市電「熊野神社」下車北入東三町	市電「堀川御池」下車西三町	市電「堀川下立賣」下車北	市電、市バス「河原町丸太町」下車東入北二町	市電、市バス「河原町竹屋町」下車東一町	市電、市バス「河原町竹屋町」下車東一町
						規定なし、心持の 程度	大人 三十錢 小人 十錢	規定なし、心持の 程度					名刺の提出を要す
								特に希望の向に許可す		特別の紹介あるもの又は學術研究者に限り許可す	紹介状又は名刺の提出を要す		

圖置配物念紀然天勝名蹟史の市都京

- 1 明治天皇行幸所本願寺
- 2 本願寺大書院庭園
- 3 明治天皇御小休所枳殼邸
- 4 涉成園
- 5 明治天皇妙法院行在所
- 6 新熊野神社の樟
- 7 高臺寺庭園
- 8 圓山公園
- 9 南禪院庭園
- 10 高瀬川一之船入
- 11 明治天皇行幸所本戸邸
- 12 頼山陽書齋(山紫水明處)
- 13 伊藤仁齋宅(古義堂)陸並書庫
- 14 神泉苑
- 15 聖護院舊假皇居
- 16 慈照寺(銀閣寺)舊境內
- 17 銀閣寺(慈照寺)庭園
- 18 詩仙堂
- 19 石川丈山墓
- 20 延曆寺境內
- 21 比叡山鳥類蕃殖地
- 22 岩倉具視幽棲舊宅
- 23 栗栖野瓦窯陸
- 24 深泥池水生植物群落
- 25 御土居
- 26 大德寺方丈庭園
- 27 大仙院書院庭園
- 28 眞珠庵庭園
- 29 孤蓬庵庭園
- 30 金閣寺(鹿苑寺)庭園



- 27 大仙院書院庭園
- 28 眞珠庵庭園
- 29 孤蓬庵庭園
- 30 金開寺(鹿苑寺)庭園
- 31 龍安寺庭園
- 32 妙心寺庭園
- 33 玉鳳院庭園
- 34 東海庵書院庭園
- 35 靈雲院庭園
- 36 退藏院庭園
- 37 桂春院庭園
- 38 御室 (櫻)
- 39 大澤池(附名古會瀧趾)
- 40 天龍寺庭園
- 41 嵐山園
- 42 西芳寺庭園
- 43 天皇の杜古墳松内趾宅
- 44 遊龍
- 45 東寺(教王護國寺)境
- 46 西寺
- 47 荷田春滿舊院
- 48 明治天皇御小休所安樂壽院
- 49 平等院庭園
- 50 醍醐寺三寶院庭園
- 51 巨椋池むじなも産地



49	平	等	院	庭	園	省線「宇治驛」又は京阪電車「宇治」下車	殿舎、大人二十錢
50	醍醐寺	三寶院	庭園			三條大橋又は六地藏より京阪バス「三寶院前」下車	大人二十錢
51	巨椋池むじなも産地					奈良電車「小倉」下車、西北	小學生 五錢

337
1015

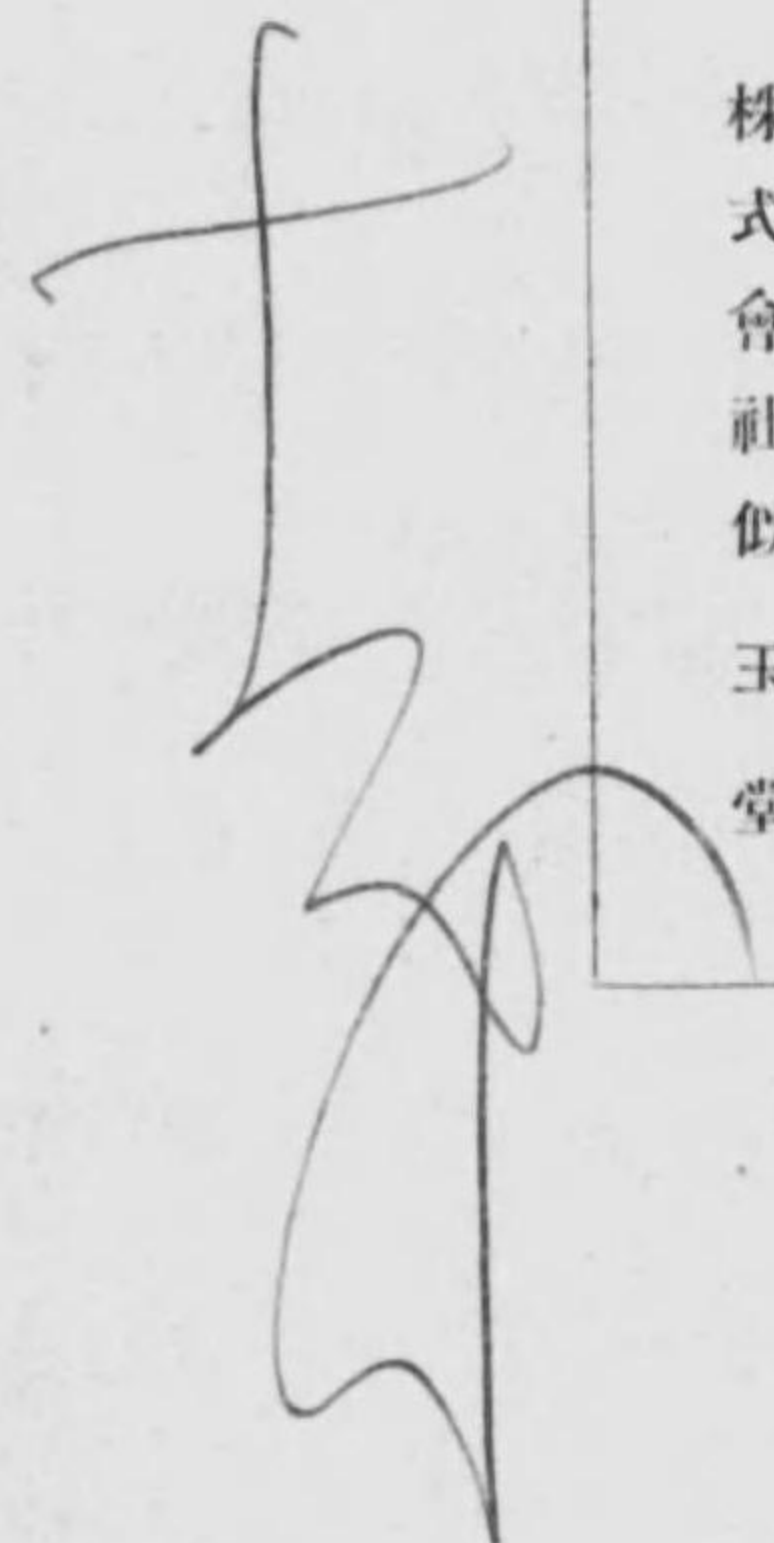
昭和十二年一月十五日印刷
昭和十二年一月二十日發行

編輯者 京都市産業部觀光課
右代表者

西田利八

印刷者 京都市中京區御馬場三條南
福井松之助

印刷所 京都市中京區御馬場三條南
株式會社似玉堂



終

